

宮坂建設工業が労災防止対策会議

### 不注意を計算に入れて 交通事故の防止策等学ぶ



【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は二十五日、帯広市内のこ

から館で労働災害防止対策会議を開催した。同社社員や協力会社社員ら百二十人が出席し、労働災害や交通事故の防止に向けた講話を講聴。工事の追込期における労働災害や交通事故の防止に向けて研鑽を積んだ。

の追込期を迎えている。日も短くなり、気温も下がり、事故発生の危険性が高くなる。きょうの講話をよく聞

引き続き、「工事追込期における労働災害防止について」と題して講話。労働災害の中でも特に交通事故の防止について説明した。有川顧問は、「事故類型別でみると追突事故が突出している。当事者の違反別でみると安全不確認、前方不注意が半数を占める」などと建設業当業者の交通事故の実態を説明。「これら原因は連動し、安全運転に必要な注意力を高めることが求められる」と警告し

た。その上で、「注意しよう」と心掛けても不注意は本質的になくならない」「注意力は絶えず揺れ動き、途切れる」などの人間の注意力の限界を指摘。「人間は不注意になりやすい厄介な動物。車の運転に伴って必然的に発生する不注意をあらかじめ計算に入れ、不注意を事故に結びつけない工夫を」と呼びかけた。

## 北海道建設新聞

2011年(平成23年)10月27日(木曜日)

### 作業手順書の 確認など求める

宮坂建設工業が  
労災防止対策会議

【帯広】宮坂建設工業



（本社・帯広、宮坂寿文社長）は25日、市内のこ

から館で労働災害防止対策会議を開いた。協力会社の安全担当責任者約120人に交通事故の発生状況を報告したほか、リスクアセスメントを取り入れた作業手順書の作成など予防措置の周知徹底を求めた。写真。

有川進顧問は、建設業の交通事故が安全不確認と前方不注意で半数を占めていることを指摘。セミナーラリアー参加などで安全意識を向上させるよう呼び掛けた。

村井和代安全環境対策室長は、リスクアセスメントを取り入れた型枠組み立ての作業手順書を例に挙げ、対応策などを示して安全確保を訴えた。

札幌支店でも労災防止対策会議

### このままゼ口災害で

## 130人が作業手順など確認

宮坂建設工業

宮坂建設工業(帯広、宮坂寿文社長)札幌支店は26日、札幌サンプラザで労働災害防止対策会議を開催した。写真。関係者百三十人が参加し、労働災害や交通事故防止に向けた講話を聴講。ゼ口災害達成に向けて決意を新たにした。



終わらせましよう」と呼びかけた。引き続き、有川顧問が「工事追い込み期における労働災害防止について」と題して講話。建設業における交通事故統計から追突事故が最も多いことを指摘した上で、「目線が一カ所に集中すると危険が高まる。絶えず目を動かしながら車を運転して」と警告した。このあと、労働災害防止に関するビデオを放映後、村井和代安全環境対策室長が「作業手順書補正作業」について講話。期待できる作業手順と直すべき作業手順を一緒に考えた。参加者は労働災害や交通事故防止に役立てようという熱心に聞いていた。

## 追い込み期の事故防止へ

宮坂建設工業が安全意識高揚を図る

宮坂建設工業(本社・帯広、宮坂寿文社長)は26日、札幌サンプラザで札幌支店労働災害防止対策会議を開き、追い込み期の事故防止に向け、安全意識の高揚を図った。写真。

協力会社を含め約130人が参加。あいさつに立った有川進顧問は「これから降雪期に入り、路面凍結といったリスク要因が増加するが、交通災害などに注意し、無事故無災害で工事完成を迎えよう」と呼び掛けた。さらに工事追い込み期



における労働災害防止についても説明。建設業で安全不確認による交通事故が多いことを指摘し、注意力の喚起を求めた。会議では、ビデオ上映や、村井和代安全環境対策室長による作業手順書補正作業の解説などを通じ、労働災害防止へ留意点を学んだ。

# 十 勝 毎 日 新 聞

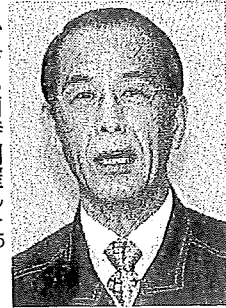
2011年(平成23年)10月29日(土曜日)

## 研 修 会

◆宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)の労働災害防止対策会議

25日午前10時、帯広市内のとちかち館で開かれた。

今年度の工事が完成に近づく追い込み期、冬期の労働災害防止が目的。同社社員、下請企業から約120人が参加した。札幌会場の札幌サンパ



ラザでも同時開催した。

有川進顧問が「工事追い込み期は労働災害事故のリスクも高まる。創業90周年を迎え、安全対策にも全力を挙げている。今年1年をゼロ災害で終えたい」とあいさつした。写真。参加者は法令遵守に関するヒアオや作業手順を確認する講話で、安全対策への意識を新たにした。